



■ 成果指標

指標	単位	現状値		実績値				目標値
				R4	R5	R6	R7	
1	関係分野における文化芸術の活用事業数	事業	13	R3	13	14	15	16
2	文化会館自主文化事業にかかる参加・入場者数	人	1,953	R2	10,797	15,866	19,378	15,000
3	市主催等の公募展への出演・出展者数	人	156	R2	145	133	581	200
4								
5								
6								
7								
8								

■ 市民アンケート調査

項目		現状値 [R2]	1次 [R5]	2次 [R6]	市民アンケートの考察
1	芸術や文化に関わる機会が充実している	重要度 0.63 満足度 ▲0.64	0.72 ▲0.50	0.68 ▲0.42	
2		重要度 満足度			
3		重要度 満足度			
4		重要度 満足度			

■ 施策推進 [施策の方向]

施策の方向	施策推進に関する考察
① 文化芸術施策の推進	「かめやま文化年2024」を中心に文化芸術活動団体等による事業を開催するなど、文化芸術施策の推進を図った。まちの賑わいや魅力の創出につなげるべく事業を進めていく。
② 文化芸術の拠点づくり	文化会館の消防設備や外構の修繕など機能整備により、市民の施設利用の促進に努めた。今後も計画的な機能整備を図っていく。
③ 文化芸術活動の活性化	文化会館と連携し、文化年事業を通じて文化芸術活動の成果発表の機会の創出と優れた文化芸術の鑑賞・体験の機会を提供した。今後もこれら機会の充実を図っていく。
④	
⑤	
⑥	
⑦	

総合評価

<p>文化芸術施策の推進については、コロナ禍で減少した子どもたちが文化芸術活動に参画する機会の充実を図るため、「まちがにぎわい こどもがわらう」をキャッチコピーとして、市、実行委員会、文化芸術活動団体を中心となって「かめやま文化年2024」を開催した。事業展開のため、実行委員会を6回開催し、企画全事業の参加者数は延べ36,406人に達するなどの成果を出すことができた。文化芸術の拠点づくりについては、重要な拠点となる文化会館において、地下タンのライニングや外構修繕など機能整備を図り、市民の施設利用の促進に努める一方、建築から40年が経ち老朽化も進んでいることから、今後も計画的な修繕が必要である。文化芸術活動の活性化については、これまでの市民俳句会・川柳大会を広報句会に変更し、誰もが参加しやすい環境を整えたほか、文化会館や市芸術文化協会と連携して、文化会館フェスタや市展、芸文祭を開催し、文化芸術活動の成果発表の機会の創出と気軽に文化芸術活動に関わる機会の充実を図った。市展については、出品数、来場者数とも前年より増加しており、市民に創作活動及び発表の機会を創出するとともに、名誉市民の彫刻作品や市文化大使の絵画作品、いこか連携交流作品の展示も行った。また、市民主導で開催された亀山トリエンナーレ2024については、財政面を含めた支援を行うことで、鑑賞の機会の充実につながるとともに、まちがにぎわい、交流が深まるなど、文化芸術施策の取り組みは順調に進んだ。</p>	<p style="font-size: 48px; font-weight: bold;">A</p> <p>順調に進んだ</p>
---	--

今後の展開方針

文化芸術施策の推進に向け、文化年事業については、記録誌を作成するとともに、次期開催予定の文化年に向けて事業の検証を行う。また、文化年の取り組みを一過性に留めることなく、更なる文化芸術の継承と創造につなげるため、地域における文化芸術映像化・活用事業を継続し、文化芸術を生かしたまちづくりの推進を図っていく。文化芸術の拠点づくりについては、核となる文化会館が築40年を経過したことから、今後も計画的な整備を図り、市民の施設利用の促進に努める。文化芸術活動の活性化については、市展等の開催により、市民が文化芸術活動に関わる機会を創出し、文化芸術の意識を高めていくとともに、亀山トリエンナーレ実行委員会や亀山市芸術文化協会など、文化芸術活動を行う団体との連携及び支援を通じて、文化芸術に優れた人材の育成や文化芸術の交流による賑わい・魅力につなげる。